

# 『デートDVって何？ ～被害者・加害者にならないために～』

中島 幸子氏 (NPO法人レジリエンス代表)  
日時:2013年12月11日(水)

## NEWSLETTER

上智学院 男女共同参画推進室  
Office for Promotion of Gender Equality, Sophia School Corporation

March 2014 No.3



NPO法人レジリエンスの中島幸子氏を講師に招いて、男女共同参画セミナー「デートDVって何？～被害者・加害者にならないために～」を開催し、学生、教職員合わせ91名が参加しました。

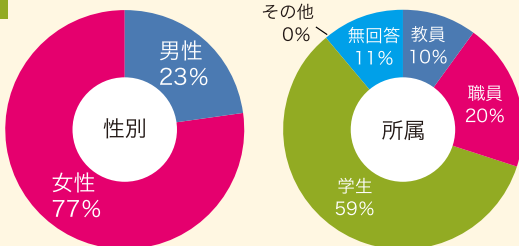
「デートDV」は若いカップルの中で起きており、誰でもそうと知らずに関わるかもしれない人間関係の落とし穴。受講者の中には、「言葉は聞いたことがあるが実態についてはよく知らない」という方も多く、中島氏はどこにでもありそうな恋人同士の具体的な例を挙げて説明していただき、デートDVがとても身近で起こる得る問題として意識するきっかけとなりました。

例えば、「テレビチャンネルを相手の了承を得ずに勝手に変えること」や「相手の考えを否定したり馬鹿にしたりすること」なども支配関係が成立してしまう恐れがあり、言葉や態度だけでも精神的に追い詰めることは「暴力」であることを指摘し、互いを尊重し合う大切さを改めて考えさせられました。「暴力」には身体的な暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、そして最近ではメールやインターネット、GPS機能などを使用したデジタル暴力があり、それらの体験はトラウマとなって、生涯にわたって大きな影響を及ぼす可能性があるということも学びました。受講者からは、「パワーと支配の関係はDVだけでなく広く共通することがあると思った」「人によって感じ方が違うということを頭において、その人に合ったペースで適切な解決方法を探す手伝いができるよう心掛けたい」など、学生・教員・職員とそれぞれの立場で様々なケースを思い浮かべながらお話を聞くことができ、貴重な機会となりました。

今回のセミナーを通して、早い段階からこのような啓蒙活動の必要性を改めて認識し、2014年11月には千代田区男女共同参画センター(MIU)と共に、女子高生や近隣の関係者等にも呼びかけ、デートDV防止と女性のからだの仕組みについてセミナーを開催することが決定しています。

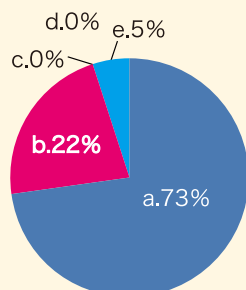
### 参加者アンケート アンケート回収率 70.3%

#### 属性



#### 講演について

- a. 大変興味深かった
- b. それなりに興味が持てた
- c. あまり興味が持てなかった
- d. 関心を持てなかった
- e. 無回答



### 被災地ボランティア報告コンサート

#### 『いのちの言葉を歌うタベ ～被災地から見えてくるものを音にして～』

2013年10月31日に目白聖母キャンパス2号館講堂にて、男女共同参画推進室、カトリックセンター、学生センター、聖母大学共催による、被災地ボランティア報告コンサートが開催されました。今回は、被災



者から寄せられた詩や短歌に曲を付け、実際に歌って曲をプレゼントするボランティア活動を行っている音楽家のきりん氏をお招きし、当日は、近隣の方々を含め約120人が講堂に集まり、「他者のために他者とともに生きる」という本学の教育精神のもと心寄せ合う素敵なひと時を過ごしました。

## グローバル・メンター相談会

『アメリカに留学するためには』

Nina Berova教授

(Columbia University, NY)

日時:2013年6月26日(水)

"Be Confident!!"

コロンビア大学より、有機化合物の



絶対立配置決定法やキラル化学で著名な女性研究者、Nina Berova先生をお迎えし、メンター相談会を開催しました。相談会には理工学研究科博士課程の学生やPD16名が参加し、海外留学やその後のキャリアパスについてアドバイスをいただきました。ブルガリア出身のNina先生は、博士号取得後アメリカへ渡り、研究活動をされていますが、英国をはじめとしたヨーロッパでの留学経験もあり、その豊富な経験から、適切な留学先の選び方や英語でのコミュニケーション力の必要性など具体的にお話してくださいました。留学後は言葉の壁だけでなく、生活スタイル・文化の違いやその環境の中での研究活動など大変なこともたくさんあります。今、英語でのコミュニケーション力をつけることが自分に自信・余裕を与え、精神的な支えになるはず！と、留学を目指す学生たちにとってもいい刺激を与えてくださいました。

## 2013年度女性研究者 グローバル育成奨励賞決定

受賞者 5名

村上 祐子 (化学領域 博士前期課程2年)

短期留学 アメリカ・ニューヨーク コロンビア大学医学部ルーズベルト病院研究所 James P.Mara肺疾患センター

鈴木 里奈 (化学領域 博士前期課程1年)

短期留学 アメリカ・ニューヨーク コロンビア大学医学部ルーズベルト病院研究所 James P.Mara肺疾患センター

中野 なつみ (機械工学領域 博士前期課程1年)

国際学会 韓国・釜山 The 7th Asian Conference on Multibody Dynamics

小金井 麻衣 (生物科学領域 博士前期課程2年)

国際学会 スイス・ダボス RNA2013(The 18th Annual Meeting of the RNA Society)

福本 めぐみ (情報学領域 博士前期課程1年)

国際学会 シンガポールThe 7th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking(ICMU2014)

2013年度女性研究者グローバル育成奨励賞の授与式が2013年12月17日に行なわれました。化学、生物、機械、情報とそれぞれ違う分野で活躍する彼女たち。この賞により海外の女性研究者に出会い大きく羽ばたくことを期待します。



ロールモデル集Ⅲ 英文版が完成!

『Sophia Female Researchers 輝くSophia女性研究者』

理工系教員中心の第1集、人文社会系・短期大学部・専門学校の女性教員を網羅した全学版の第2集に引き続き、今年度は、さらに留学希望者等諸外国へ向けた発信ツールとして、第3集の英文版を発行しました。グローバルに活躍する女性研究者の道のりを紹介しています。



## グローバル企業との連携事業

ポッシュ株式会社主催『リケジョのキャリア2013』を後援

本学が目指すグローバルな社会での活躍を支援するため、2013年度からドイツに本社を置くグローバル企業のポッシュ株式会社が主催するイベント「リケジョのキャリア2013」(全3回)を後援し、企業との新たな連携事業を開始しました。



第1回 「リケジョで、よかった。が刺さる4時間」

日時:2013年8月8日(木)

日立製作所(総合電機)、JT(食品・その他)、NTTコムウェア(IT)、ポッシュ(自動車部品)の大手企業4社が登場し、それぞれの業界における理系女子のキャリアが紹介されました。当日は全国から100人を超えるリケジョが集まり、NHK首都圏ネットワークでも紹介され、参加者たちからは「専門以外での理系女子の活躍の場を知ることができ視野が広がった」、「企業選びの参考になった」との声が寄せられました。



第2回「キャリアをグローバルに考えよう」

日時:2013年10月21日(月)

このイベントでは、実際にリケジョが働く職場として、ポッシュの開発施設を見学する機会を設け、施設で働く先輩リケジョたちに職場環境や携わっているプロジェクトについてたくさんのお話を聞くことができました。施設見学の後は、外国人エンジニアの方たちとワークショップ形式で交流しながら、日本以外の国でエンジニアがどのようにキャリアを積んでいくのか、日本での仕事と家庭の両立についてなどグローバルな視点で意見交換をしました。



第3回「キャリアを主体的に考えよう」

日時:2013年12月23日(月)

現役で活躍しているポッシュの女性エンジニアの方々と交流しながら、専用のワークシートを用い、理系女子に起こりうる仕事やライフイベントを人生ゲームで体験しなら、実際のリケジョライフをシュミレーションし、自身のキャリアについて考えました。ロールモデルとして参加して下さった女性エンジニアの方のなかには、ご主人の転勤に合わせて海外勤務を経験された方や、入社2年目で出産し時短勤務で働いている方、結婚してからMBAスクールに通いながらキャリアアップを目指している方など様々で、「ワーク・ライフ・バランス」の重要性について改めて考えさせられました。



オープンキャンパス 日時:2013年8月1日(木)~3日(土)3日間

『未来のソフィちゃん、集まれ!』

今年度もオープンキャンパスでは、比較的に女子の割合が少ない法学部・経済学部・理工学部について、女子高校生を対象とした現役女子学生による相談コーナーを設置しました。その他にもロールモデルとして法学部・経済学部の各学科から社会で活躍するOGを、理工学部からは10名の女性教員の研究内容をそれぞれポスターで展示したり、女性研究者ロールモデル集を配布するなど男女共同参画推進室の取組みについても紹介しました。暑い中の実施でしたが、3日間で来場者数1000名を記録する大盛況となりました。



理工学部:レモンガラスの抽出実験を紹介



法学部:地球環境について学ぶ学生たちによる打ち水



経済学部:新井ゼミ開発パンプスを紹介

高校生対象 夏休み実験教室 日時:2013年8月8日(木)・9日(金)2日間

『ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI~』

夏休み期間中の2日間、高校生を対象に、「微生物の生き残り戦略~裏切り者は誰だ!?~」をテーマに実験教室を開催しました。今回は実験を通じて研究の楽しさを体感してもらおうとともに、この交流から理系分野への関心を高めてもらおうと、齊藤玉緒准教授(理工学部物質生命理工学科)と教職志望の大学院生たちが企画。当日は、厳しい暑さの中、2日間で55名の高校生たちが集まり、白衣に着替えた学生たちは初めて使用する実験用具に少しとまどいながらも、大学院生の指導を受けながら楽しく実験に臨みました。お昼の学食でのランチには、学部生ボランティアも加わって、実際の大学生活や研究活動の話などで盛り上がりました。最初はお互いに緊張していた高校生たちも、同じ興味や目標をもった友達ができ、とても賑やかな雰囲気の中交流を楽しみました。



上智福岡中学校 出前授業 日時:2014年2月15日(土)

全国的に大雪に見舞われた週末、本学の理工学研究科生物科学領域1年の長野裕樹さんが、中学2年生の合同授業に参加し、自身の研究内容や、「大学とは」「研究とは」をテーマに話をしました。長野さんは上智福岡高校(※旧泰星学園59期卒業生)のOBでもあり、親しみやすさもあつたのか、大学がとても楽しそうなどという印象を多くの生徒に感じてもらうことができました。





## きらめくソフィアン

理工学研究科理工学専攻化学領域博士前期課程2年の鈴木智世さんが、日本の学生代表として、(財)国際科学技術財団による若手科学者育成事業の一環である、ストックホルム国際青年科学セミナーに参加しました。毎年2人の学生を派遣し、世界各国から派遣された若手科学者とともに、ノーベル賞行事への参加や国際交流の場が提供されます。本学からはこれまで理工学部物質生命理工学科の竹岡裕子准教授をはじめ、複数の卒業生が参加しています。

世界17カ国からの23人の参加者とともに、ノーベル賞受賞者によるノーベルレクチャー、レセプション、授賞式、そして晩餐会に出席。また、ノーベル賞受賞者と同じステージで自らの研究発表も行いました。同じ化学を学ぶ学生たちとは、お互いの研究室、研究内容、投稿論文などの話もでき、とても刺激的な「ノーベルウィーク」を過ごしました。



ノーベル化学賞受賞者、Michael Levitt博士と(左)鈴木智世さん

### 鈴木智世さん

学部3年生のときに、参加経験者の竹岡准教授からこのプログラムについて知り、大学院に進学したら絶対応募したい！と考えていました。受賞者のマイケル・レヴィット博士(スタンフォード大学)は私たち若手科学者に向けて‘Take chances, but do not be too stupid. Be passionate, be persistent, be original, be kind and good.’という激励のメッセージを下さいました。今後も感謝の気持ちを忘れずに努力していきたいと思います。

## JST「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013」

### 『女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013』

日時:2013年11月11日(月)

市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて、文部科学省主催のシンポジウムが開催され、全国から89機関の女性研究者支援活動の代表者が集まりました。シンポジウムでは、これまで実施してきた取組により得られた成果を踏まえ、国際的に活躍できる女性研究者を育成していくための方策を模索するため、ポスター発表・グループ討議、有識者による基調講演、パネルディスカッションが行われました。本学が参加した分科会A-IIグループ(大都市圏の公立・私立大学グループ)には11大学が参加し、早下理工学部長(男女共同参画推進室室長補佐)が座長をつとめ、女性研究者数の増加策、リーダーシップやネットワーク形成の重要性について意見交換を行いました。



## 独立行政法人国立女性教育会館主催

### 『大学等における男女共同参画推進セミナー』

日時:2013年11月28日(木)・29日(金)

2日間にわたり、国立女性教育会館において「大学等における男女共同参画推進セミナー」が開催され、全国各地から教職員など87名が参加しました。1日目は、「男女共同参画の意義」や「女性のキャリア形成支援」などをテーマに基調講演が行われ、2日目に行われた分科会では、本学から『大学における女性研究者支援の在り方』をテーマに事例報告を行い、事業終了後の展開を視野に入れた新たな体制づくりや、グローバル企業との連携事業などの新たな取組を紹介し、多くの質問が飛び交いました。他機関とのグループ研修により、今後の課題について改めて見直すことができ、また、新たなネットワークを築く有意義な機会となりました。



## お知らせ 2014年4月22日(火)「グローバル・メンター相談会」を開催します!

### グローバル・メンター

清華大学 童 愛軍(Aijun Tong)先生

Professor, Department of Chemistry, Tsinghua University, Beijing, China

今回は、4年間アメリカのUIUC大学でポスドクを経験した向 宇(Dr. Xiang Yu)先生も一緒にお招きし、体験談をお話いただきます。

化学の専門分野のほか、アメリカの研究所のことや留学についてなど幅広く相談できるこの機会に、ぜひご参加ください。

詳細は後日HPにてお知らせ致します。